



イモアラ

六本木 芋洗坂新聞

発行所 水産経済新聞社 〒106-0032 東京都港区六本木6丁目8番19号 電話03-3404-6531(代) FAX 03-3404-0863

2014年
(平成26年)

3/15 (土)

SATURDAY

Special

視点を変えることで、 アートの可能性を探ろう。

元NHKアナウンサー山本浩さんに聞く、スポーツがもたらす多幸感とアートの共通点。

元NHKアナウンサー

アーティスティックディレクター(聞き手)

山本浩×日比野克彦

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

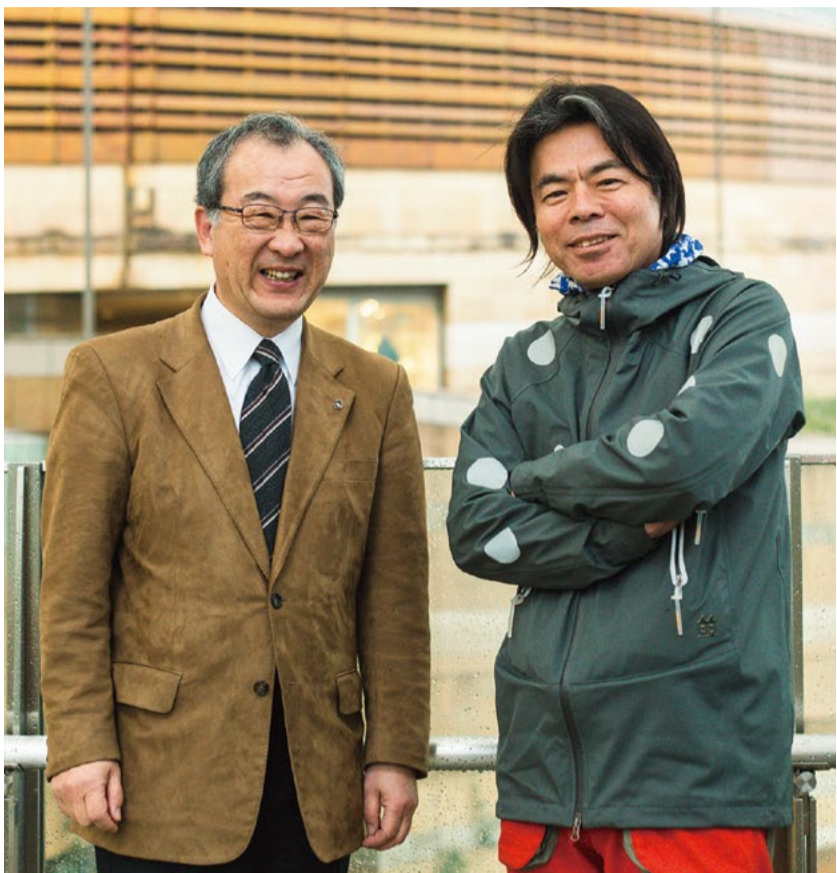
「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。



写真左: やまもと・ひろし/1953年島根県生まれ。76年NHKにアナウンサーとして入局。2000年6月から解説委員。09年退職。現在法政大学学部専任教員。アナウンサーとして実績ではサッカーW杯1986年メキシコ大会より5大会連続、オリンピックは88年カルガリー大会より夏冬あわせて9大会で放送に参加。

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。



「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。



365日アートナイト……なんてことが現実になる日も!?

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

HIBINO TSUBUYAKI

第2回

ツブヤキ

「動け、カラダ！」をテーマに開催される今年、六本木アートナイト。スポーツとアートの深い関係とその役割について常に考えをめぐらせている日比野克彦氏が、長年スポーツに携わってきた山本浩氏に話を聞いた。

会場に設置されたミシン台で古着の布を縫い合わせる西尾氏。スクール終了後、参加希望者でミシン前には列ができた。



School #02

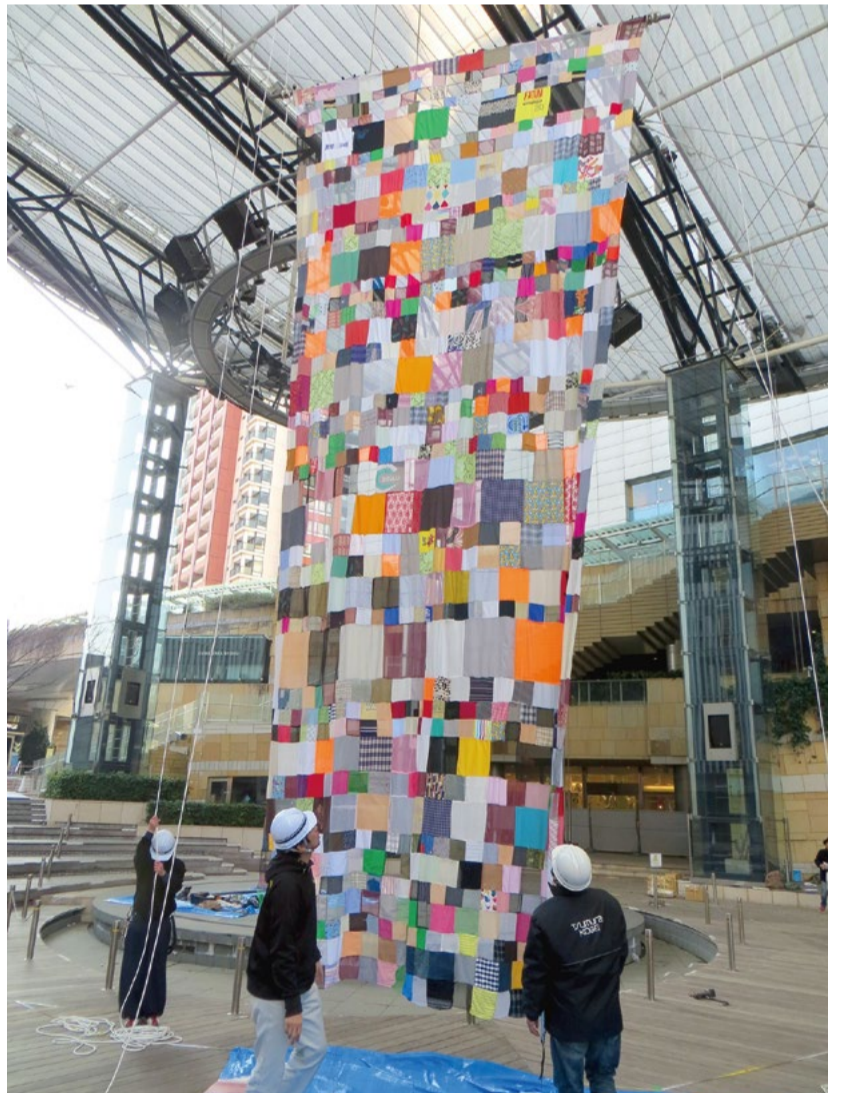
公開スクール第2弾！ 六本木の街を彩る 2人の作家のコンテンツから、 アートナイトを考えた。

『動け、カラダ！』は、
街にどう飛び出すのか
六本木アートナイト開
催まで1月より月に1度、

主催団体がイベントの準備過程をリアルに、ありのままを公開する「六本木アートナイトスクリーン」に開催。アートナイト全体をくぐる大きなテーマ『動け、カラダ！』に基づいてプログラムがどう展開していくのか、僕はファッションや服を

方について議論した第1回に続き、「コンテンツの街への組み込みかたを、国立新美術館の3箇所に布を使った展示をする西尾氏。これは六本木の周辺で集めた古着を解体してパッチワークにした布です。僕はファッションや服を

写真は2月に六本木ヒルズアリーナで行われた作品の吊り実験の様子。



まず、第1回の終わりに話しかけてきてくれた人が今、アートナイトの準備のための貴重な戦力になっていたりもするし、実際に、すごく楽しい作業なので参加して欲しい。いわゆるプロフェッショナルな立場で確実に予算や縮切を守ってこなすべく受ける仕事と違って、アートナイトの作品は指示通りできあがって、かとは分らないけれど、アーティスト個人では絶対できない面白さや偶然性を秘めている。街の人を巻き込んで作るプロジェクトとしても重要なものになる」と、一般の方に参加してもらおうことの面白さと必要性を語った。



参考作品:写真左《ボタン／雨》2011年、写真右《花柄／花》2011年
「再考現学」展/国際芸術センター青森/青森 撮影:下道基行 写真提供:国際芸術センター青森

森美術館10周年記念展 Mori Art Museum 10th Anniversary Exhibition

アンディ・ウォーホル展

2014.2.1(土)-5.6(火)・(休) 会期中無休 FEB 1 - MAY 6, 2014 永遠の15分

開館時間 10:00-22:00(入館は21:00まで) 4/29(土・日) 5/6(火)は22:00まで 単入場は観覧料のみ30分前まで お問い合わせ 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

森美術館 MORI ART MUSEUM www.mori.art.museum

4/19(土)は六本木アートナイト2014により翌朝6:00まで開館延長!!
“マリリン”に会いに来ませんか?

Toronto/Amsterdam

第2回

海外アートナイト見聞録

こんには、六本木 起用。ゾーン毎のテーマアートナイト実行委員の佐藤麻紀子です。私が体験した海外のアートナイトの考察をお届けするこの連載。2回目となる今回は、トロントとアムステルダムのアートナイトを例に挙げ、成功するアートフェスティバルの共通点や、そこから私たちが学べることを考えてみたいと思います。

前回お話ししたように、世界のアートナイトは開催地によって雰囲気や規模と変わります。金融ビジネス街・トロントの「ニュー・フランス」は、企業から集めた潤沢な資金と丁寧なキュレーションが特徴。私が訪れた2012年は、エリアごとの4組のキュレーターを

に基き、作品を編集していきまし。街歩きをしたながらコンセプトに共通性のある作品を見比べる、アートを通してあるテーマについて考えを深める……まさに「ニュー・フランス」なアートの効用と都市の機能を組み合わせた、とても賢い構成だと思えました。また、主催者であるトロント市にイベント専門の部署があり、プロフェッショナルが企画・運営・資金調達をしているのもユニーク。アートを都市の文化政策のひとつと位置づけているのがよくわかりました。

一方、アムステルダムは、良い意味で手作りの感



Toronto/広大な地下駐車場を大胆に使ったプログラムでは、非日常感を味わえました。



Toronto/オフィスビルの光の中に幻想的に現れるアート。この都市の機能を上手く活用。



Toronto/ビジネスビルの外壁を使う大掛かりなアートは、企業の理解があるから出来ること…



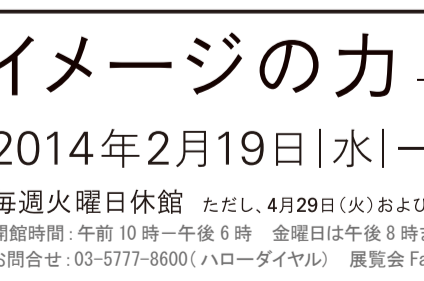
Amsterdam/音楽や映像に合わせて体を動かすインタラクティブなアート作品も。

一見、両極端に思える2つのアートナイトですが、ある大切な点で共通しているの気づきまし。それはアートナイトが、単なるお祭り騒ぎでも、一部のアーティストのみのイベントでもなく、「都市を成熟させる文化政策」に成り得ていること。そして、日本に

これからの必要なのが、この姿勢ではないでしょうか。例えば、日本では公共の場を利用してイベントを行う際に規制があり、その為作品を展示する環境で発表できないことがありますが、単に規制を緩めればいわけではありませんが、トロントやアムステルダムのよ

に発想を柔らかくして、主催者も地域住民も、開催まで約1か月とささらには国まで一緒にイベントをつくること大切。誰もが平等に体感できるアートという神聖ならば、立場が違っても、一丸となって担流にも多くを学びながら、今年も六本木らしい一夜を目指します！

(聞き手・内田有佳)



Amsterdam/見知らぬ参加者と食事をしながら、会話を楽しむアートセッション。

アートナイトを成熟した都市の文化政策に！

さとうまきこ/英国ゴールドスミスカレッジで現代美術にはまり、せんだいメディアテークの開館業務に従事。現在は森ビルタウンマネジメント事業部で六本木ヒルズの各種イベントを企画。



アートナイト主催団体代表と西尾氏、伊藤氏らが登壇。舞台の前に西尾氏の作品が。



ダンサー、振付家 伊藤キム 氏



アーティスト 西尾美也 氏

募集も合わせて巻き込み140人程度でのパレードが予定されている。「もともと頭の中にあるアイデアは叩き台でしかない、参加する人が叩いて行ったその先にある想定外のものを見るのが楽しみ」と伊藤氏。日比野氏も、「参加者だけでなく、街中にいる人やモノや、いろんな要素が関わってくる可能性を大事にしていきたいですね。関係のない人たちが道で踊り出すこともあるんじゃないかな？」と続ける。伊藤氏は「傍観者で終わってほしくないけれど、主体になって関わるものもなかなか難しい。白い布を身につけたパフォーマーに西尾さんの古着の布を渡してマシクテーパーで貼ってもらうなど、沿道の人が気軽に参加できるアイデアも考えています」。

地域との関係性や、しがらみをどう超えるか

六本木ヒルズアリーナを出発し、六本木通り、星条旗通り、国立新美術館などへ行くパレードのルートが一通り説明されるも、当日はロアピルの方面で工事の予定もあり、ルートが限定されること分る。商店街として古くからある店が軒を連ねる外苑東通り周辺も通って欲しいなどの意見も交わされた。六本木ヒルズの佐藤麻紀子氏は「東京ミッドタウンに

は在住者やホテルがあるのも早朝に行われるように、深夜帯のオープンが難しいと同様、ヒルズにもマンションがあるのでも、騒音問題はともで、騒音問題はともで、リケート。難しいことはたくさんあるけれど、街中で行われる大規模なアートフェスティバルを地域に開かれたものにしてほしい。街の人に理解してもらい、街を一緒に育てていきたい。協力者はアーティストに参加してもらった経緯があります。その後、西アーツがコアタイム。真夜中にイベントを行うには、街の施設や店舗、そして地域の協力をなしには成り立たない。

日比野氏曰く、「博多山笠など伝統的な祭りの中



六本木アートナイト2014メインビジュアル



伊藤キム氏が手掛けた過去のパフォーマンス風景



イメージの力 —— 国立民族学博物館コレクションにさぐる

国立民族学博物館創設40周年記念 日本文化人類学会50周年記念

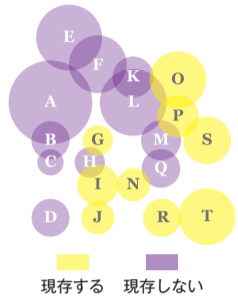
2014年2月19日|水|—6月9日|月| 国立新美術館 企画展示室2E [東京・六本木]

毎週火曜日休館 ただし、4月29日(火)および5月6日(火)は開館、5月7日(水)は休館 開館時間: 午前10時—午後6時 金曜日は午後8時まで 4月19日(土)は「六本木アートナイト2014」開催にともない午後10時まで開館(入場は閉館の30分前まで) お問合せ: 03-5777-8600(ハローダイヤル) 展覧会 Facebook: http://www.facebook.com/the.power.of.images

- 六本木アートナイト2014 スペシャルプログラム
- ◆もうひとつの「イメージの力」
- ◆プロジェクト大山 presents 仮面舞踏会 — イメージの力、うごく!



EPISODE & DIAGRAM



- A 閑静なお屋敷の町
- B 二軒長屋で店を営む
- C リヤカーひいて弁当を売り、築地に買い出しに
- D 建物が低くて隅田川の火花がよく見えた
- E 第二次世界大戦の空襲で焼け野原に
- F 陸軍第一連隊、第三連隊等は焼け残りそこへ避難した
- G 寺のある街
- H ちんちん電車が路上を走る
- I 農地改革を経てお店は広がった
- J だんだん夜の街になった
- K 焼け野原でバラック暮らし
- L 陸軍がズラリ敬礼する六本木通り
- M 米軍が街を闊歩
- N 六本木通りの坂がなだらかに感じるようになった
- O 孫と花見
- P 神宮外苑から青山霊園の散歩道
- Q 馬車が行き交う
- R 空を抜ける高速道路ができた
- S ドクダミ、フキ、ヨモギを摘んで食べた
- T いつの間にかにぎやかな大都会になった

六本木リサーチプロジェクトは、皆で街の未来を考えて行くプロジェクトです。街の歴史や情報をイラストなどでご紹介していきます。

第一回は、「住んでいる人の頭の中の六本木」。六本木交差点のほど近くに長年住む95歳のおばあちゃんにとっての六本木の姿を見てみましょう。

彼女の街の記憶は戦前から始まり、彼女にとっての六本木は陸軍が通りで整理するお屋敷街。記憶した場の要素の重要度は、経済的優位性や存在した時間の長さには比例しません。人はその地で最初に目にした街の有り様を鮮烈に認識し脳裏に描き続け、場所像の骨格とするようです。現在私たちが見ている街は絶え間ない変化の一断面です。そして記憶に残る事なら例えささやかな一瞬であっても街の姿の重要な構成要素なのです。あなたの頭の中にはどんな六本木がありますか？



Project
六本木リサーチプロジェクト①
住んでいる人の頭の中の六本木

すぎやま・なつみ/東京都生まれ。最近、場所と人の関係をテーマにした活動を始めました。六本木を見直したくなる視点を発信します。

People

今月の「六本木人」
カブノス六本木たばこセンター
高橋秀男さん

戦後の焼け野原から六本木を見つめてきた地元っ子



たかはし・ひでお/日本パイプクラブ連盟常任理事、理事会議長・事務局長。昭和47年より営まれる「カブノス六本木たばこセンター」(東京都港区六本木5-1-4)の3代目店主。「親も私も子供も麻布小学校」という生粋の六本木人。

「おじいさんの代から六本木」という高橋秀男さん。昭和47年に外苑東通り沿いに開店した「カブノス六本木たばこセンター」の3代目店主。

「うちの家は明治時代からこの場所で店をやっている。104年前には食料品とたばこの店を営んでいたのです。今はたばこの専門店。ちょっと珍しい巻きタバコからパイプまでいろいろ揃えているので、店頭には全部出せていません」。

とはいえ、店内には国内外のユニークなタバコがずらりと並び、店名のカブノスとはギリシャ語でたばこの意味。お店をオープンさせた年がオリピックの年だったので、それにちなんで名付けたという。

今では大きなビルが建ち並び多くの人々が行き交うこの街も、高橋さんの子供の頃は一面が焼け野原だった。

「小さい頃は、まわりに何もなかったの、ここから賑やかでした。」

世界中の逸品珍品が並ぶ「カブノス六本木たばこセンター」。高橋さん自身もパイプクラブ連盟の理事を務めているだけに、パッケージデザインを眺めるだけでも楽しんでくれるような店作りを心がけているそう。また、高橋さんがふかすパイプから漂ってくる、ほんのり甘い香りがリラックスしたムードを演出している。聞けば、バニラの香りのたばこだという。

「落ちていた紳士」という印象の高橋さんだが、若い頃は神輿をかついで外苑東通りを闊歩していたという。そこで、今年の六本木アートナイトで伊藤キムさんがパレードを行う話になり、

「ここまで歩くかもしれないと、先目うちにも顔を出してくれました。アートナイトは昼もやると聞いていいねと思った。子供が参加できる祭りは大賛成です」 (吉田直子)



発行人◎六本木アートナイト実行委員会
編集◎芋洗い坂新聞編集局
総括=日比野克彦
企画=武村俊/田中美知子/西谷枝里子
企画協力=角張敏郎
編集=吉田直子
AD=内田雅之(VOLTAGE)
取材=井出幸亮/大池明日香/内田有佳
撮影=藤田慎一郎/赤澤昂有
印刷◎水産経済新聞社

動けカラダ!
六本木アートナイト2014
Roppongi Art Night 2014 www.roppongiartnight.com

4.19 SAT → 20 SUN

2014年(平成26年)4/19(土)10:00~4/20(日)18:00 コアタイム 4/19(土)18:17[日没]~4/20(日)5:03[日の出] ※コアタイムはメインとなるインスタレーションやイベントが集積する時間帯です。
|開催場所|六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース|主催|東京都、アーツカウンシル東京・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】お問い合わせ|03-5777-8600|(ハローダイヤル、年中無休8:00~22:00) 東京都青少年の健全な育成に関する条例により、18歳未満の方の午後11時から翌日午前4時までの入場はご遠慮願います。

目、手、足、腹、胸、喉、背中、頭、鼻、顔、心臓、肺、細胞